

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立北波多中学校
1 前年度 評価結果の概要	・今年度も基礎学力の定着を図りながら、学力の向上を目標に掲げ、指導法改善やICT機器の活用に向けた研究授業やTT授業等に取り組んできた。学習へ向かう姿勢も徐々に意欲的になってきており、学力の高まりとともに自己肯定感も高まりつつある。県学力状況調査において、1年生は2教科、2年生は4教科が県の正答率を上回った。しかし、思考力・判断力・表現力における観点別正答率においては、県平均を下回る教科も多く、今後の課題としてとらえている。 ・コロナウイルス感染症予防の観点から、様々な行事が中止あるいは縮小となったが、保護者や地域の協力、支援を受けていくつかの行事をすることができた。行事を通して達成感や成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育てている。しかし、行事についての事前準備に多くの時間を費やしていることも事実である。今後も業務改善や行事の精選など行いながら勤務時間の適正化を図る必要がある。
2 学校教育目標	自他を大切にし、互いに認め合い、共に高め合う生徒の育成
3 本年度の重点目標	①一人一人が大切にされる学習づくり ②自己指導能力を高める生活づくり ③互いのよさを認め合える仲間づくり

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	・学期末にマイプランの成果と課題を明らかにし、学年末における成果指標の達成を目指す。	B	・全職員による学力向上対策評価シートの共通理解と共通実践がまだ徹底できていない部分もあるが、全国調査結果の分析を通して、今後の方向性の確認を行うことができた。	B	・全国調査結果の分析を通して、本校生徒の現状を把握し、今後の方向性の確認を行うことができた。すべての教科が共通実践できる学習活動(あての提示・振り返り)を必ず取り入れながら、生徒の主体的な学びに向かう指導の工夫を行うことができた。	B	・生徒が主体的に学習に取り組む工夫(ワークシートやICT等)がされている。それが生徒の学力につながったと思う。今後も生徒の学力向上に努めてほしい。	学力向上コーディネーター
	○授業への積極的取組	○学校評価アンケートで「積極的に取り組んでいる」と答えた生徒を75%以上にする。	・TTや少人数指導を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実践し、よりきめ細かな授業を実践する。 ・研究指定を受けて、校内研を中心として教職員の授業力を高める。	B	・TTによる指導を取り入れ、きめ細やかな指導を実践できている。また、研究指定を受け、授業改善を意識しながら取り組んでいる。	A	・指導方法の改善や教師のきめ細かな指導で徐々に学力の向上が進んでいる。学校評価アンケートで「積極的に取り組んでいる」と答えた生徒は93%以上と高い値を示した。	A	・授業へ積極的に取り組んでいると答えた生徒は、90%を超えており、わかる喜びを感じている生徒も多い。	学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○地域の人材や外部講師を活用した体験活動や講話などにより、心情面を育てる。保護者の肯定的意見80%を目指す。	・「いきいき学ぶからつ子推進事業」と関連させ、地域人材の活用やキャリア講話を各学年の実態に応じて行い、社会性や倫理観を培う。 ・平和集会とPTA活動の体験活動(ピースナイトハイク等)を連携させ、生命の大切さや他者への思いやりを育てる。	B	・平和集会はPTA協力のもと屋内にて実施した。ステージにスクリーンを設置し、生徒の平和についての意識を高めることができた。	B	・平和集会や人権集会を通して、人権意識を養い、人を思いやる気持ちや自他を大切にすることを育んだ。また、自他を大切にすることの高まりとともに自量自棄になる生徒が少なくなり、95%の保護者が、分け隔てなく人と接していると感じている。	B	・学校と地域とのつながりを感じる。今年度もコロナ対策の為、様々な活動が中止や規模縮小となるが多かったが、できる範囲で活動を進めたことは良かったと思う。	教頭
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価アンケートで「学校はいじめのない楽しい学校づくりに努めている」と回答した保護者を80%以上にする。	・いじめアンケート、生活アンケート、Q-Uを実施し生徒の変化を捉え、自ら進んで活動する授業の確立を図り、生徒の体力向上を支援する。 ・部活動加入を助めるとともに、部活動を計画的に実施したり、体力増進のために活動内容を工夫したりする。	A	・いじめ防止への取組としては、月1回の生徒指導協議会にて気になる生徒の報告と気づきを多面的価格的に協議し、いじめの発生を未然に防止している。	A	・「学校はいじめのない楽しい学校づくりに努めている」と回答した保護者が77%と目標を下回った。今後は、学校がいじめ対応に対して肯定的でない保護者の意見を把握し、気になる生徒への声掛けや、Q-Uの研修会、計画的な教育相談を効果的に活用していく。	A	・保護者面談などでしっかりと意見を聴取し、いじめ対応への取組に生かす必要がある。いじめの解決に向けて、学校がどう取り組んでいくかが大切である。	生徒指導
	○生徒のボランティア精神の育成	○生徒のボランティア精神の育成のため、校内外の行事・清掃美化活動・ボランティア活動を全生徒1度は経験させる。	・各種団体と連携するとともに、生徒会(ボランティアバンク)が中心となり企画・運営を行い、生徒の自主的な活動にする。 ・生徒の得意分野や地域の人の感謝の声を聞き上げ、生徒の活動意欲や達成感につなげる。 ・メディアの活用を行いボランティア意識の高揚を図る。	B	・校外によるボランティア活動は、コロナに活動が停止している。しかし、校内のボランティア活動においては生徒会が中心となり自主的な活動が展開されている。参加する生徒も自主的にボランティア精神を培っている。	A	・コロナ禍にあって、ボランティア活動の機会が減少しているが、校内のボランティア活動に参加した生徒の延数で、全生徒数程度であった。コロナ禍の中、生徒はボランティアの大切さを改めて実感することができた。	A	・生徒のボランティアに対する意欲を強く感じている。しかし、コロナにより生徒の活動が制限を受けていることは残念である。次年度からに期待している。	生徒会 (ボランティア)
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○スマホ、ゲーム保有者の使用時間2時間以内/日の割合を70%以上とする。(月～金)	・PTA総会や保護者懇談会を活用し、スマホの危険性や功罪について講話を行い、保護者にSNSの使用のさせ方について考えてもらう。	A	・スマホの危険性や功罪について講話については、今年度は携帯会社の情報モラル講座を生徒対象に行うことができた。また、県警音楽隊の「安心・安全コンサート」の中でもスマホにかかわる内容で話をしてもらい、生徒の意識向上を図ることができた。	A	・スマホの危険性や功罪について講話については、今年度は携帯会社の情報モラル講座を生徒対象に行うことができた。また、県警音楽隊の「安心・安全コンサート」の中でもスマホにかかわる内容で話をしてもらい、生徒の意識向上を図ることができた。スマホ、ゲーム保有者の使用時間1時間以内/日の割合は70%で目標を達成することができた。	A	・ネットによるトラブルが多く報じられ危機感を感じる。その中で、情報モラル講座を行うことで生徒への正しい知識と操作、モラルなどの教育を行えたのではと思う。今後は、スマホを与えている保護者への啓発も行う必要があるのではないと思う。	生徒指導主事
	○体力の向上	○新体力テストにおいて、合計得点が全国平均を上回る。	・めあての設置、個人ノートの活用、活動の場の工夫等により、自ら進んで活動する授業の確立を図り、生徒の体力向上を支援する。 ・部活動加入を助めるとともに、部活動を計画的に実施したり、体力増進のために活動内容を工夫したりする。	-	・	A	・めあての設置、活動の場の工夫等により、自ら進んで活動する授業の確立を図り、生徒の体力向上を支援することができた。日頃の体育の授業の中で体力を高めるトレーニングを常に取り入れ体力の向上に努めることができた。	A	・体育の授業や部活動が体力向上には大きな要素である。今後も、日々の積み重ねから体力の向上につなげてほしい。	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(45H)を遵守する。	・毎月の時間外勤務をチェックし、個人面談を行い超過の原因を明らかにしし上限(45H)の遵守に努める。	B	・時間外勤務状況をチェックし、超過した職員への声かけをして、時間外の解消につとめている。	B	・大半の職員は時間外勤務の上限の遵守ができていたが、大きな学校行事がある月には、上限(45H)を超える職員がいる。業務の分担等が課題である。	B	・時間のゆとりは気持ちのゆとりにつながる。学校・保護者・地域が役割を分担して、その役割を果たしていくことが大切である。今後も業務内容の見直しが必要である。	教頭
	○休養日の確保	○毎週水曜日及び土曜日または日曜日のいずれかを100%休養日とする。(試合が土日開催の場合は、翌日以降に必ず休養する)	・毎月の業務記録表を点検し休養日取得状況を把握し、確実に取得を実践する。	A	・休養日の取得は、現在までのところ確実に実践されている。	A	・部活動の休養日は、全部活動が確実に取得できている。	A	・過度の練習や試合参加は生徒や教員の負担になると思う。生徒の実態に応じた部活動が必要である。	教頭

重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			評価
○地域連携	○保護者(PTA)や地域各団体との連携・協力	○保護者や地域の人の来校者を50人以上にする。	・学校のホームページと保護者連絡メールを有効に活用し、学校の行事を早く知らせ、参加率を高める。	-	・学校のホームページと保護者連絡メールを有効に活用して情報の提供をしている。保護者の多くが参照しているが、来賓については参加制限をかけている。(コロナ感染防止の為)	A	・入学式・卒業式では、来賓の数を制限して実施したが、それ以外では保護者の制限をなくした。そのため成果指数の500人はほぼ達成とみることができる。	A	・子どもが在席している学校に対して、保護者が学校教育活動に対して関心が高いことがわかる。	教頭
	○学校行事や生徒の様子の情報発信	○学校評価アンケートで「学校の情報公開は進んでいる」と回答した保護者を90%以上にする。	・学校行事やPTA行事においてメディアを活用し、地域に生徒の様子を伝え開かれた学校を進めていく。また、学校だよりも有効活用する。	A	・学校行事やPTA行事において、学校だよりを通して、地域に生徒の様子を伝え開かれた学校を進めて行くことができた。	A	・学校からの情報は、学校だよりやホームページ、メール等で定期的にお知らせをしているが、情報公開については保護者の90%が肯定的に目標を達成することができた。	A	・保護者がどのような情報を求めているのかを知り、そのうえで情報を発信すると保護者の受け取り方も変わってくるのではと思う。	教頭
	◎志を高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒の割合を80%以上にする。	・キャリア講話や先輩に学ぶ会等で外部人材を活用し充実を図ると、様々な視点から生き方を学ばせる。	-	・新型コロナウイルス感染症の影響により中間段階での評価が困難であるため	B	・生徒自らが行う輪番制の校内放送やリモートを活用し夢や希望を育む取組を行っている。95%の生徒が夢の実現に向け、努力している。	B	・これからの社会を担う子どもたちこそ、夢や希望をもって日々の生活を送ることが大切である。夢や希望は活力であると思う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・今年度は県の「小中連携による学力向上推進地域」の指定を受け、小中連携による学力の向上を目標に、指導法改善やICT機器の活用に向けた研究授業やTT授業等に取り組んできた。学習へ向かう姿勢も徐々に意欲的になってきており、学力の高まりとともに自己肯定感も高まりつつある。県学力状況調査において、1年生・2年生ともに全教科で前年度の成績を上回ることができた。今後も、思考力・判断力・表現力という活用力の育成しながら、学力向上に努めていきたい。 ・コロナウイルス感染症予防の観点から、様々な行事が中止あるいは縮小となったが、保護者や地域の協力、支援を受けていくつかの行事をすることができた。行事を通して達成感や成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育てている。しかし、行事についての事前準備に多くの時間を費やしていることも事実である。今後も業務改善や行事の精選など行いながら勤務時間の適正化を図る必要がある。
----------------	--